

## 1. 日時・場所

日時：2015年2月24日、25日

場所：ヴィラフォンテーヌ東京汐留会議場

## 2. 主催・協力等

主催：環境省 協力：アジア開発銀行(ADB) 事務局：地球環境戦略研究機関(IGES)

## 3. 参加者 参加総数70名程度

- ・アジア14カ国及び日本の環境影響評価の実務に携わる政府関係者、専門家、事業者、NGO/NPO
- ・アメリカ合衆国及びオーストラリア連邦政府関係者
- ・援助機関等の国際機関(ADB、国際金融公社(IFC)、国際協力銀行(JBIC)、国際協力機構(JICA)、アメリカ合衆国国際開発庁(USAID)、世界銀行 等)
- ・その他環境影響評価に係る海外関係者



**International Workshop on  
EIA System and Implementation in Asia**

24-26 February 2015, Tokyo, Japan

# アジア地域における環境影響評価の促進に向けた国際ワークショップの結果概要

- アジア地域の環境影響評価制度及びその実施に際しての共通課題について概観し、日本国環境省が環境影響評価に関する調査を実施したアジア地域6カ国（カンボジア、インドネシア、韓国、ミャンマー、タイ、ベトナム）及び環境省より、各国の環境影響評価の実施における優良事例について発表。
- テーマ別に4つの分科会（①上位計画・戦略的環境アセスメント、②環境影響評価の品質向上、③情報公開及び公衆参加、④環境保全措置及びモニタリング）において議論。
- 開発援助機関、NGO等がアジア地域における環境影響評価の推進に向けた取組等について発表。
- 議長サマリーがとりまとめられた。（以下、抜粋）  
「環境影響評価は持続可能な開発を促進する有用なツールであり、その効果的な実施のためにも、各国がお互いの経験を学びあうことが重要であること、また、本ワークショップがアジアにおける環境影響評価についての概念、課題、優良事例を共有する上で、有意義な機会となったこと、及び、今後同様の機会が継続されることへの期待、さらに、既存のネットワークとも連携を図りながら、本ワークショップで培われた緩やかなネットワークを通じた相互のコミュニケーションと協力を継続していくことが合意された」